

PICK UP

取材日：2015年4月9日

埼玉医科大学国際医療センターが 大学病院初JCI「Academic Medical Center Hospital」を取得。

埼玉医科大学国際医療センターは、2015年2月、世界的な病院機能評価である Joint Commission International (JCI) の教育機関向けの認証「Academic Medical Center Hospital」を取得した。現在までに日本では13の施設がJCIの「病院」、「長期ケア」、「外来診療」の各プログラムでの認証を取得しているが、同院が取得したのは「Academic Medical Center Hospital」プログラムで、日本初のケースだ。JCIは、「医療の質の向上と患者安全」を評価する非営利の国際的第三者機関で、世界保健機関とも連携して医療の質向上に取り組んでいる。審査では、該当病院に医療安全を担保するプログラムがあることのみならず、プログラムが正常に機能しているかまでもチェックする。チェック項目は、16の評価分野で1,218項目。うち2分野72項目が、大学の施設のみに関する項目(臨床研究、医学教育)であるという。審査員の聞き取りの対象は、医師ら医療スタッフだけでなく、患者や家族、売店の店員までに及び、5日間にわたって徹底的な審査が行われた。病院長の小山勇先生に認証取得の動機や経緯についてうかがった。

2011年、病院長就任 ボリュームに負けない質を

当院は第4次埼玉県地域保健医療計画にもとづき、埼玉県全域でのがん、心臓病に対する高度専門医療や救命救急医療(脳卒中を含む)を提供するため2007年4月に開設されました。「国際医療センター」という名称には、グローバルスタンダードにかなった世界第一級のメディカルセンターとして高度な医療を提供しようとの精神が込められています。また、外国から医師、看護師などのトレーニングの受け入れ、あるいは共同研究のための国際交流などを前提とした病院の運営を行うことも目的としています。

私は開院当初から副院長を務め、2011年に病院長に就任しました。その間、各分野で目覚ましい実績を残し、日本でもトップクラスのハイボ

リュームセンター(多数例を手術する施設)と認められるにいたりました。病院長就任にあたり私が目を向けたのは、ボリュームに偏らず成長するために質を担保する施策です。少なくとも、「国際医療センター」の名に恥じぬグローバルスタンダードの医療の質を達成していなければならないと考えました。その時点でJCIは視野にあり、国内外の認証取得施設への視察も行っています。

質向上の一環として 日本初の認証取得をめざす

日本にはすでに、先行してJCI認証を取得した医療機関がいくつかありましたが、すべて「病院」など、「Academic Medical Center Hospital」以外のプログラムでの取得でした。

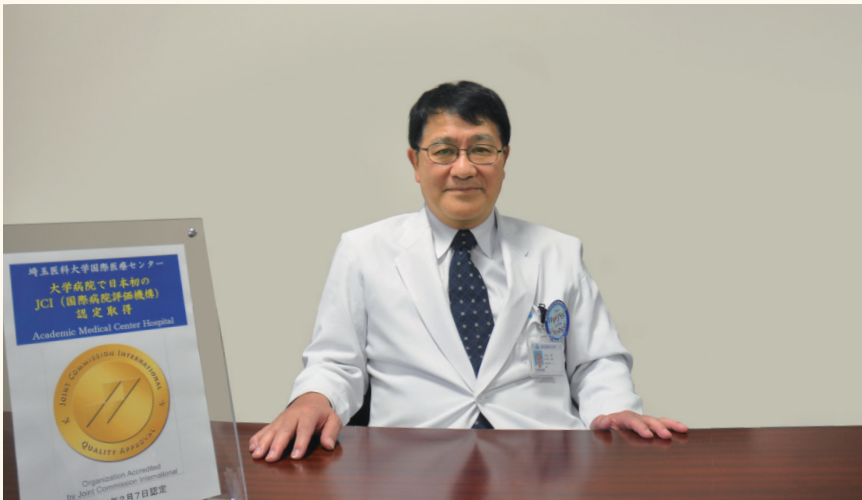
当院も、「病院」プログラムでのアプローチは可能な状況でしたが、

大学病院であることから、日本初の「Academic Medical Center Hospital」プログラムへのチャレンジを決めました。集患が目的の認証取得ではありませんし、大学附属の医療機関ならば、教育や研究にまで審査の対象が及ぶ認定に挑むのは当然だと思ったからです。

加えて言えば、認証取得は目的ではなく、手段であり、プロセスです。私たちは医療の質の向上のためにすべきことをすべてする考えで進んでおり、このチャレンジはそのうちのひとつにすぎないとの姿勢でした。

バージョン4から5へ より厳しい基準への挑戦

準備は2012年に院内に委員会を立ち上げ、徐々に進みました。2013年には作業が本格化し、2014年9月にモックサーベイ(模擬審査)も決ま



埼玉医科大学国際医療センター病院長

小山 勇先生

りました。そこで、ひとつの試練が生まれます。2014年4月から審査内容のバージョンが4から5にアップされるとわかったのです。これにより、ガバナンスとリーダーシップに関して新しく、より厳しい基準が設けられました。

そして、何よりの難題が、膨大な量に及ぶ基準を示した文書の日本語版が完成するのが同年8月だったのです。日本語版完成を待っているのはモックサーベイに間に合いません。関係スタッフが総出で原文を日本語に翻訳する作業に没頭することになりました。

システムとプロセスをトータルで認証する

国内の他の認証と圧倒的に違うのは、説明責任と実行責任がセットになった問いかけがなされる点です。

私たちがよく知っている認証は、達成すべき項目が示され、それが達成されていることを確認して取得にいたります。言わば「～をしなればいけない」と定められた項目を満たすことに邁進すれば良いわけです。

対してJCIは、すべきことが概念的に示されたうえで、「どうやっていますか」と質問されます。方法論を説明すると、それに対する問題点が指摘されます。そして、「どのようにして克服しますか」とさらに質問がきます。「こう克服しなさい」ではなく、「どのように克服しますか」です。解決の方法はこちらに任されます。アウトカムに○や×をつけるのではなく、システムとプロセスをトータルで評価するものです。

印象的に残っている項目に、「小児誘拐の対策」や「消防訓練の実施」があります。担当審査員から指摘を受け、院内で何回もディスカッションを繰り返しました。結果、小児病棟のセキュリティに関して当院独自の何重もの体制が完成しています。消防訓練については、必ずすべての病棟で徹底できるよう訓練を実施しています。

誇れるシステムと風土を残し継承するのが病院長の務め

JCI認証は、取得すれば終わりではありません。一度基準を満たした施

設は、年ごとに機能を高度化させるべきとの思想のもとにある制度だからです。認証取得よりも、更新に向けた継続的な取り組みのほうが大変と言えるでしょう。

院内スタッフとは、「パンドラの箱を開けてしまったな」という冗談を交わしています。しかし、心の中では取得は間違っていなかったと確信していますし、JCIには感謝の念さえあります。私自身も含め当院のすみずみまで国際基準への理解が進み、明らかに当院の医療の質の向上に寄与しているからです。

JCI認証にチャレンジした結果、当院のポリシーに関する文書約300を改訂しました。院内のカルチャーも明らかに変わりました。当院ではすでに「QualityはAssuranceするもの」ではなく、「QualityはImproveするもの」との考えのもと、QA委員会はQI委員会と名称を変え、QA室はQI室に変更しました。診療録の作成は厳密に行うルールとなり、守れない医師には完成するまで診療の一時停止の処分がくだることになります。

私たちの究極の目標は、患者さんが「受診して良かった」と感じてくださる病院、加えて職員が仕事に誇りを持って医療に取り組める病院となることですが、そのための道しるべを、しっかり築きたいと思います。

いつか病院長を辞すべきときもくるでしょう。そのときには、他に誇れるシステムと風土を残して引き継ぎたいと思います。そのときまで病院長職を全うする覚悟です。

埼玉医科大学国際医療センター

〒350-1298

埼玉県日高市山根1397-1

TEL : 042-984-4111